

IV. ヒングヌル（白い翳）美学に現れた甌山の和解と相生

「ヒングヌル」の語源は

正易に起源する
李雲圭の影動天心月
翳が世界を変える

A. 正易は「影動天心月」の解釈から生まれ、
翳が世界を変える」という翳の意味に明るさが加わる

B. 生命が律呂を経てヒングヌルへと進化

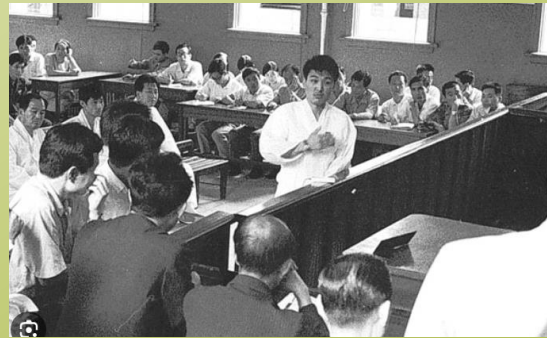
カントの純粹理性・実践理性・判断力と同じ順序
ミメシス・ミュトス・カタルシスとも同じ順序
仙仏儒の胞胎・養生・欲帯と同じ関係

C. 影動天心月と儒仏仙

認識対象の側面から主体と客体が合一した世界の自覚を成そうとしたのが道家思想であるとするれば、認識主体の側面から主体と客体が合一した人格性の世界を自覚しようとしたのが仏家思想であると言える。一方、儒家思想は自覚にその中心があるのではなく、自覚の可能な根拠としての存在自体を闡明することによって、それを根拠として自覚と実践にその中心がある。

IV. ヒングヌル (白い翳) 美学に現れた甌山の和 解と相生

金芝河のヒングヌルは
真の東学の意味、複合化



IV. ヒングヌル (白い翳) 美学に現れた甌山の和 解と相生

金芝河のヒングヌルの 一貫した理解

A. 陰陽合徳：Xは-Xであり、-XはX。：胞胎、
道教の基本的原理としての陰陽。生命としてのリミナリティ、
ミメシス：天と初めて出会う

B. 神人調和：XはXでも-Xでもない。：養生、
仏教ス (感情)。天から地へ降りてくる、律呂、再活性
化

神と人間、天と地がそれぞれの長所を生かした神人調和
C. 解冤相生：XはXであり、-Xは-X。欲帯、
儒教の始まり、地と天が人間において出会う
カタルシス、長年の怨恨が解消される

D. 道通真境：Xはすべてのもの、冠旺、キリ
スト教の始まり。赤い悪魔の変拍子のように、互いに異なるものが調和を成す。汝の敵を
愛せよ。(マタイによる福音書)